

<産業廃棄物処理実態調査票 記入要領>

1. 提出期限

調査票の提出は、令和7年6月30日（月）までをお願いします。
2. 調査対象事業所

本調査票が送付された市町村が保有している浄水場を対象としています。従って、市町村庁舎内等から排出されたものは対象とはなりません。
3. 調査対象期間

本調査の対象となる期間は、令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日までの一年間）です。従って、この期間中に発生した廃棄物等の状況について記入してください。
4. 調査票の構成

本調査は以下の調査票および記入要領等から構成されていますので、調査票にご記入の上、調査票のみを同封の封筒に入れてご返送ください。

●調査票（その1）（その2）

：各1部

●調査票（その3）

：1部

○記入要領（本票）

：1部

○廃棄物分類番号表

：1部

●意識調査票

：1部

○返信用封筒

：1通

5. 調査対象廃棄物

別添の「廃棄物分類表」に示す廃棄物を対象とします。ただし、本調査では通常の産業廃棄物の他に、自社内で再（生）利用したものや他所に売却した物及び回収されたものも対象となりますので、記入をお願いします。

6. 記入方法

「調査票（その2）」の記入方法については、本票中面の「調査票の記入要領」を参考にして記入してください。なお、記入欄が不足する場合は、お手数をおかけしますが用紙をコピーしてご記入ください。

なお、調査票は委託業者のWebサイトからExcelデータでダウンロードできます。

URL：<https://www.gr-eco.co.jp/osaka-sp/DL.html>

7. 提出方法

同封の封筒で郵送をお願いします。（切手は不要です。）

上記ホームページより調査票をダウンロードされた方は、メールやwebでの提出もできます。提出先メール：osaka-sp@gr-eco.co.jp

8. その他

ご提出いただいた記入内容について、お問い合わせする場合がありますので、調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。

※秘密の保持について

本調査における内容については、目的以外に使用せず、個々のデータについては、秘密を遵守します。

記入方法に関するお問合せは、本調査業務を大阪府より受託している（株）グリーンエコ）までお願いします。また、Webサイトに「よくある質問」を掲載しておりますので、ご参照ください。

電話番号：0120-010-155
URL：<https://www.gr-eco.co.jp/osaka-sp/DL.html>

産業廃棄物処理実態調査票【その1】

調査票(その1)の記入例

調査票番号

調査会社記入欄のため記入しないでください。

1. 本調査は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物の全てが対象となります。

2. 本調査の対象期間は令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）です。

3. 複数の浄水場をお持ちの場合は、浄水場毎に調査票を分けてご記入ください。

4. 調査票（その2）に貴事業所から発生する産業廃棄物の状況について記入してください。産業廃棄物が調査の対象期間中に何も発生しなかった場合は、本調査票（その1）の「事業所の概要」、「事業の概要」欄をご回答の上、ご返送ください。

事業所の概要	事業所名	▲▲場						
	所在地	〇〇市××町1-1						
	記入者	部署名				電話番号	06-6210-〇×△▲	
		フリガナ氏名	サキシマ 咲洲	ハナコ 花子				
メールによる回答をする場合、今後、本調査の調査対象となった際に送信アドレス宛にメールによる依頼をしてよい場合は、チェックしてください。								<input checked="" type="checkbox"/> メールによる依頼可

事業の概要	給水能力		給水量							
	令和7年4月1日現在の処理能力を記入してください。		令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の給水量を記入してください。							
			千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万
	2 0 0 0 0 0 m ³ /日						1 0 0 0 0			m ³ /年
	給水対象人口（工業用水は除く）		令和6年度中の給水対象人口を記入してください。他の給水源と併せて給水する場合は、貴事業場の自己水源による給水割合を併せて記入してください。							
		104000		人						
自己水源割合				%						

令和6年度の1年間に産業廃棄物等は発生しましたか。該当する番号に○を付けてください。

※再生利用された物、有償等で引き渡している副産物も対象としてください。

1. 発生した。

2. 発生しなかった。

次へ

「事業所の概要」「事業の概要」を記入し、返送してください。

裏面の調査票（その2）に貴事業所から発生した産業廃棄物等について記入してください。

<調査票(その2)の記入要領>

上水道業

調査対象期間

●この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑬までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した副産物（産業廃棄物、有償・無償引渡物）だけが記入の対象となります。

●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

○自社で脱水している場合の発生した廃棄物とは脱水前のものです。（記入例Eを参考にしてください）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100％－脱水後の含水率％）÷（100％－脱水前の含水率％）

○自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Dを参考にしてください）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
○含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

調査票(その2)の記入例

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票(その2)を記入してください。

本紙の裏面の「廃棄物分類表」を参照してください。

該当する単位に、必ず○をつけてください。

⑤I・R・ギ-回収の内容
1:発電
2:熱利用

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0(ゼロ)」を記入し、単位はkgに○を付けてください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、分かる範囲で記入してください。

⑪処理後の処分方法
1 再利用・再生利用している
2 埋立処分している

⑫I・R・ギ-回収の内容
1:発電
2:熱利用

区分	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量								単位	④方法番号	⑤I・R・ギ-回収	⑥中間処理後量								⑦処理・処分方法	⑧処理・処分先又は再生利用先の名称	⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑩方法番号			⑪処理後の処分方法	⑫I・R・ギ-回収	⑬資源化用途
			百	十	万	千	百	十	一					百	十	万	千	百	十	一					1次処理	2次処理	3次処理			
記入例：A	1鉄板くず	1 2 1 0							1	2	kg												W 1 ㈱□□	〇〇市				① 2		10
記入例：B	2機械油	0 3 1 1				1	0	8	0	0	kg											U 1 ××商店	▼×府	〇×市	E			① 2		30
記入例：C	3廃タイヤ	0 6 2 6				4	0	0	0	0	kg											X 1 ■■タイヤ販売	〇△町				1・2		81	
記入例：D	4木くず	0 8 0 1							1	0	kg	A					5	0	0	0	0	kg	S 1 ㈱×▼	×●市				1・2		
記入例：E	5排水処理汚泥	0 2 2 1							5	0	kg	B D					1	0	0	0	0	kg	U 1 □×㈱	〇×府	▲〇市	L		① 2		90
記入例：F	6感染性廃棄物	2 0 1 8				1	2	0	0	0	kg											U 1 △△産業	×▽市	A			1・②			
記入例：G	7廃プラスチック類	0 6 0 0				1	0	0	0	0	kg	A	1					5	0	0	0	kg	S 1 ㈱×▼	×●市			1・2			
欄	8																											1・2		

ここでは、中間処理、再生利用や最終処分した先の名称を記入してください。委託した廃棄物が中間処理後に最終処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

記入例：A	記入例：B	記入例：C	記入例：D	記入例：E	記入例：F	記入例：G
<ul style="list-style-type: none">鉄板の加工の際に鉄板くずが年間12t発生した。これは、〇〇市にある㈱□□に売却した相手先では鉄鋼材料として利用している	<ul style="list-style-type: none">月平均で一斗缶5本ぐらいの機械油が発生した。重量換算すると年間に1,080kgである。これは、▼×府〇×市の再生業者××商店に処理を有料で依頼した。相手先では、油水分離後、燃料として再利用している。（18kg×5本×12か月）	<ul style="list-style-type: none">年間に廃タイヤが400kg発生した。これは、納入業者である〇△町の■■タイヤ販売に渡した。■■タイヤ販売では再生タイヤとして利用している。	<ul style="list-style-type: none">木くずが年間10t発生した。自社の焼却炉で全て焼却した。焼却灰は、500kg程度で×●市に処分場を保有する㈱×▼で直接で埋立処分した。	<ul style="list-style-type: none">排水処理汚泥が発生した。自社の施設で脱水→乾燥を行い、脱水後の残さが10t（含水率85％）であった。脱水前の量は、計算していないので正確ではないが、脱水前の含水率が97％であるため計算すると、50t程度となる。処理後の汚泥は、〇×県▲〇市にある□×㈱のセメント製造工場で処理をした。委託先では、セメント原料として再生利用している。計算式 10t×（100－85）÷（100－97）＝50t	<ul style="list-style-type: none">感染性廃棄物が年間1200リットル発生した。院内では処理せず×▽市に処理施設を保有する△△産業に委託し、焼却処理してもらった。焼却後の燃え殻は埋立処分しているとのことである。	<ul style="list-style-type: none">廃プラスチック類が1t発生した。自社の焼却炉で全て焼却し、発電に利用した。焼却灰は、50kg程度で×●市に処分場を保有する㈱×▼で直接で埋立処分した。

調査票【その3】の記入例

(上水道業)

将 来 活 動 量 指 標						
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
給水量(万m ³ /年) ※1	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300	7,300
給水能力(m ³ /日) ※1	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
給水人口(人) ※1	1,040,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000
将 来 発 生 ・ 処 理 状 況 (単位:トン/年)						
廃棄物の種類 (有機性汚泥)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
A: 不要物等発生量	200	200	200	200	200	200
B: 有償物量	0	0	0	0	0	0
C: 廃棄物発生量(A-B) ※2	200	200	200	200	200	200
自中社間処理 D: 中間処理量	200	200	200	200	200	200
E: 残渣量	120	120	120	120	120	120
F: 未処理量(C-D)	0	0	0	0	0	0
G: 委託量(E+F)	120	120	120	120	120	120
委中託 H: 中間処理量	0	0	0	0	0	0
I: 残渣量	0	0	0	0	0	0
J: 未処理量(G-H)	120	120	120	120	120	120
K: 処分量(I+J)	120	120	120	120	120	120
L: 再生利用量	0	0	0	0	0	0
M: 最終処分量	120	120	120	120	120	120
廃棄物の種類 (無機性汚泥)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
A: 不要物等発生量	150	150	150	150	150	150
B: 有償物量	0	0	0	0	0	0
C: 廃棄物発生量(A-B) ※2	150	150	150	150	150	150
自中社間処理 D: 中間処理量	0	0	0	0	0	0
E: 残渣量	0	0	0	0	0	0
F: 未処理量(C-D)	150	150	150	150	150	150
G: 委託量(E+F)	150	150	150	150	150	150
委中託 H: 中間処理量	0	0	0	0	0	0
I: 残渣量	0	0	0	0	0	0
J: 未処理量(G-H)	150	150	150	150	150	150
K: 処分量(I+J)	150	150	150	150	150	150
L: 再生利用量	0	0	0	0	0	0
M: 最終処分量	150	150	150	150	150	150
廃棄物の種類 ()	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
A: 不要物等発生量						
B: 有償物量						
C: 廃棄物発生量(A-B) ※2						
自中社間処理 D: 中間処理量						
E: 残渣量						
F: 未処理量(C-D)						
G: 委託量(E+F)						
委中託 H: 中間処理量						
I: 残渣量						
J: 未処理量(G-H)						
K: 処分量(I+J)						
L: 再生利用量						
M: 最終処分量						

※1 貴事業場の自己水源による給水の対象となる量または人口を記載してください。
 ※2 C: 廃棄物発生量について、汚泥は脱水処理前の数量をご記入ください(調査票【その2】記入例参照)。
 ※3 廃棄物の種類ごとに記入してください。また、記入欄が足りない場合は本用紙をコピーして記入してください。